



新年度スタート！

4月になりました。新年度となり、新しい体制で開室してまいります。
昨年度に引き続き、予約制を敷いてのご利用となりますが、これからも安心安全な居心地の良いひろばとして
利用できるように努めてまいります。みなさまにお会いできることを楽しみにしております。今年度もどうぞ
よろしくお願いいたします（＾＾）♪

【リレートーク！】

先生方のコラムには子育てのヒントが沢山詰まっています！

今月は甲南子育てひろば前室長 伊藤篤教授 と 新室長 上田淑子教授より寄稿いただきました。

子ども室長退任にあたって：「猿団子」に寓（よ）せて

めっきり春めいてまいりました（この文章を書いているのは3月中旬です）。みなさまがこれを読まれる頃には、春本番になっていることでしょう。また、それぞれに新たな生活を始めている方も多いのではないかと思います。

そんな時期に、“寒さ”を想起させる話題で恐縮ですが、「猿団子」についてお話ししたいと思えます。この「猿団子」、香川県小豆島が有名ですが、淡路島モンキーセンターでも観察されるようです。数頭の団子もあるようですが、大勢が丸く身を寄せ合っている光景は、私たちの気持ちをなごませ・心を暖かくさせてくれます。

しかし、実は、力の強い上位の猿とその取り巻きたちが団子の中心に陣取り、力の弱いメス猿や子猿が外側に追いやられているのだそうです。「弱い者が大切にされる・尊重される」光景ではないと知り、いささか落胆しました。「私たち人間社会はどうか」と問えば、目を覆うばかりのウクライナ情勢を挙げるまでもなく、さらに嘆息です。

このリレートークの欄で、何度か述べてきましたように、「子育てひろば」は子育て家庭（親子）が生き生きとした毎日を送っていただくことを後押しする居場所です。常に「団子の中心に親子が安心して陣取る」ことをモットー（指針）としています。

私は、2021年度末で甲南子育てひろば（子ども室）の室長を退任しましたが、新しい室長（上田淑子教授）と保育士スタッフが、この指針を堅持してまいります。今年度も「甲南子育てひろば」をご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

伊藤 篤

総合子ども学科の上田です。

2022年度より伊藤先生の後任として子ども室 室長になるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本学の「甲南子育てひろば」は神戸市と連携した「地域子育て支援拠点事業」の一環として2007年より開設されています。少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、このひろばの果たす役割は今後ますます大きなものになっていくに違いありません。こうした状況を受け止め、微力ではありますが、地域の子育て中の親と親をつなぎ、親子をつなぎ、子育て支援職員と親子をつなぐ場「甲南子育てひろば」の運営のお手伝いができればと考えております。

どうかよろしくお願いいたします。

上田 淑子

<3月のひろばの様子>

【おんがくあそび】

3月9日（水）午前10:30～ 参加親子8組（親8名 子ども9名 合計17名）

卵型のマラカスや鈴を使い“おんがくあそび”をしました。

CDの曲に合わせて楽器を鳴らしたり身体を動かして楽しい時間を過ごしました。

参加者されたお子さんは楽しそうにジャンプしたり音楽に合わせて歩いたり楽しそうな様子でした。

「なかなかお出かけも難しい中安心して過ごせます」「家でできないことが親子で楽しめてよかった」等の声も頂きました。



【お父さんDAY ・ 休日のひろば】

3月21日（祝・月）

お父さんDAY 午前 9:30～11:30 参加親子7組（親7名 子ども8名 合計15名）

休日のひろば 午後13:30～15:30 参加親子8組（親13名 子ども9名 合計22名）

大学ではオープンキャンパスを実施中でしたが、ひろばでは、お父さんDAY・休日のひろばを実施しました。

午前のお父さんDAYでは、お父さんとお子さんでじっくりと関わって遊ばれていました。

最後に”バスにのって♪”の音楽に合わせて一緒に触れ合い遊びも楽しみました。

休日のひろばでは、お父さんお母さんがご一緒の参加が多く、親子でゆったりと遊んだり、ご家族同士での交流をされたり、皆さん和やかに過ごされていました。

ひろばでは、今年度もお休みの日の開室を月一回程度予定しています。

平日のひろばも含め1家庭2人まででしたらご家族の方はどなたでも参加できます。ぜひご利用ください。



お父さんDAYの様子



休日のひろばの様子



【「わいわいトーク」オンデマンド配信継続のお知らせ】

当ひろばの「わいわいトーク」とは、大学教員が中心となって進める座談会・講演会に加え、夏祭り・ハロウィンパーティーなどの季節を楽しむイベントも含まれます。

コロナ禍のため、2021年度から始めたオンデマンド型の“わいわいトーク”は、2022年度も継続します。引き続き、ぜひご視聴ください！

[【甲南子育てひろば】「わいわいトーク」オンデマンド配信のお知らせ](#)



【ひろばのご利用について】

<2022年度の利用対象者>

2019年4月2日～2023年3月31日生まれのお子様と、その保護者
(首が据わってからの参加をお願いいたします)



<ひろば開室時間>

開室日：月曜日から金曜日（水曜日の午後は閉室）

開室時間：午前9時～11時30分 午後1時～3時30分

<新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い>

1. 利用者数の制限について

当面の間、利用者数を制限します。午前・午後、各10組の事前予約制です。

2. 利用希望日の予約方法について

- 1組（家庭）につき保護者の方は2名までです。

- 予約の受付は、すべて先着順になります。

予約完了後、次の件名のメールが届きますので、ご確認ください。

「【甲南子育てひろば（子ども室）】予約受付のご確認」

- 予約システムでの受付は利用開始時刻までです。

ひろば開室後のお申し込みやキャンセルのご連絡は、電話でお願いいたします。

詳しくは甲南女子大学 甲南子育てひろばHPより

「甲南子育てひろば 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い」を必ずご確認ください。

ご利用の皆さまにはお手数をおかけいたしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。



<5月のイベント予定>

●5月21日(土)●

午前(9:30～11:30) お父さんDAY

午後(13:30～15:30) 休日のひろば開室

※ご利用の予約は、予約システムから

お申し込みください。

予定は予告なく変更となる場合があります。

最新情報は、Twitter

(ID: kw_hiroba) をご覧ください。



【お問い合わせ先】

〒658-0001

兵庫県神戸市東灘区森北町

6-2-23

甲南女子大学 子ども室(子ども室)

TEL ☎078-413-3120

MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp

ひろばのTwitterは
臨時閉室等の最新情報をお届けします。
ID : kw_hiroba



【リレーク！】

先生方のコラムには子育てのヒントが沢山詰まっています！
今月は本学人間科学部総合子ども学科 教授 仲山 正志先生より寄稿いただきました。

体を動かす遊びを大切に

人間科学部総合子ども学科 教授 仲山 正志先生

■子どもの運動能力について

スポーツ庁は2021年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（全国体力テスト）」の結果を公表しています。「実技では、男子の合計点が現行方式で調査を始めた2008年度以降、最も低くなった。また、一定間隔で20メートル走を繰り返すシャトルランと、中学生のみの持久走（男子1500メートル、女子1000メートル）が男女共に過去最低だった。上体起こしや反復横跳びも、落ち込みが目立った。」としています。

同様に幼児の運動についても、少し古いデータですが幼児の動作の獲得が年々遅れている傾向にあり、男女児ともいずれの年齢でも1985年の得点が有意に高く、1985年の年少児と2007年の年長児の得点がほぼ等しくなっており、2007年の年長児は1985年の年少児と同等の動作しか獲得できていないと報告されています。

■幼児期運動指針

幼児の運動能力の低下に対応するため、文部科学省は平成24年、「幼児期運動指針」を示し、その対応について提言を行っています。そこには3つのポイントが挙げられています。

- ①多様な動きが経験できるように様々な遊びをとり入れること
- ②楽しく体を動かす時間を確保すること
- ③発達の特性に合った遊びを提供すること



(引用) 山梨学院教授 中村和彦著：「運動神経が良くなる本」

①については左記の図を参考に運動遊びをすることが重要であると考えられます。

②については、具体的な目標として1日60分の運動遊びが挙げられています。これは、特別に60分間の運動時間を設定するのではなく、幼児の生活全般を通じて合計60分です。園まで歩いていくこと、友達と公園で遊ぶこと、家族と運動遊びをするなどが含まれています。

③これについては、幼児期は運動神経の発達が顕著に伸びる時期となっています。その成長に合わせて、体に過剰な負担が生じることのない遊びであることが必要です。自発的に体を動かして遊び、結果として無理なく基本的な動きを身に付けることとなります。最後に、幼児が多様な動きを経験できる、自発的に体を動かしたくなる、そのような家庭での触れ合いの中でこそ運動能力が身についてきます。是非、家族が触れ合う遊びの時間を大切にしていきたいと思えます。

【新しいおもちゃとパーテーションのお知らせ】

ひろば内に新しいおもちゃが増えました。
動きのあるおもちゃなので、それに伴いパーテーションもつきました。
バイクや手押し車で遊ぶ際には、パーテーションの奥の広いスペースで遊んでください。
また、パーテーションの‘開け閉め’は、必ず保護者の方が行ってください。

消毒作業のため、ひろばに置いていないおもちゃもありますので、
遊びたいおもちゃがある場合は、気軽にスタッフまでお声がけください♪



【新しいスタッフのご紹介】

4月より新しいスタッフが加わりましたので、紹介いたします。



おさだ 先生

4月から子育てひろばのスタッフになりました。
みなさんとお話ししたり、お子さんと一緒にあそべるのを
楽しみにしています。
来室の時はいつでもお声がけください♪

【「わいわいトーク」オンデマンド配信継続のお知らせ】

当ひろばの「わいわいトーク」とは、大学教員が中心となって進める座談会・講演会
に加え、夏祭り・ハロウィンパーティーなどの季節を楽しむイベントも含まれます。
コロナ禍のため、2021年度から始めたオンデマンド型の“わいわいトーク”は、
2022年度も継続します。引き続き、ぜひご視聴ください！

[【甲南子育てひろば】「わいわいトーク」オンデマンド配信のお知らせ](#)



【ひろばのご利用について】

<2022年度の利用対象者>

2019年4月2日～2023年3月31日生まれのお子様と、その保護者
(首が据わってからの参加をお願いいたします)

<ひろば利用時間>

開室日：月曜日から金曜日（水曜日の午後は閉室）

開室時間：午前9時～11時30分 午後1時～3時30分



<新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い>

1. 利用者数の制限について

当面の間、利用者数を制限します。午前・午後、各10組の事前予約制です。

2. 利用希望日の予約方法について

- 1組（家庭）につき保護者の方は2名までです。

- 予約の受付は、すべて先着順になります。

予約完了後、次の件名のメールが届きますので、ご確認ください。

「【甲南子育てひろば（子ども室）】予約受付のご確認」

- 予約システムでの受付は利用開始時刻までです。

ひろば開室後のお申し込みやキャンセルのご連絡は、電話でお願いいたします。

詳しくは甲南女子大学 甲南子育てひろばHPより

「甲南子育てひろば 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い」を必ずご確認ください。

ご利用の皆さまにはお手数をおかけいたしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。

<6月のイベント予定>

●6月5日(日)●

午前(9:30～11:30) お父さんDAY

午後(1:30～3:30) 休日のひろば開室

※ご利用の予約は、予約システムから

お申し込みください。

予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter

(ID: kw_hiroba) をご覧ください。



【問合先】

〒658-0001

兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23

甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120

MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



ひろばのTwitterは
臨時閉室等の最新情報をお届けします。
ID : kw_hiroba



【リレートーク!】

先生方のコラムには子育てのヒントが沢山詰まっています!
今月は本学文学部メディア表現学科 教授 増田 のぞみ先生より寄稿いただきました。



「エッセイマンガから得られる豊かなヒント」

文学部メディア表現学科 教授 増田 のぞみ先生

日本のマンガは近年、海外でも注目され、多くの読者に親しまれています。少年マンガ、少女マンガをはじめ、大人向けのマンガもたくさん読まれています。なかでも多くのファンを持つジャンルのひとつがエッセイマンガです。

エッセイマンガには、作者本人の経験が描かれていることが多く、作者の経験を読者と共有する「共感」のメディアとなっています。たとえば育児マンガの場合には、正しい知識が整然と書かれた育児書とは異なり、作者個人の日常の経験が切り取られ、個人の感じたことがそのまま、ときには面白く脚色されて描かれている点に特徴があります。今回は、育児中のみなさんにとくにおすすめの子育てマンガを紹介します。

◆東村アキコ『ママはテンパリスト』（集英社）

『月姫』や『東京タラレバ娘』をはじめ、多くのヒット作を持つマンガ家の東村アキコさんが、自身の育児体験をもとに2007年から2011年まで連載した『ママはテンパリスト』（全4巻）。いたずら好きの男の子「ごっちゃん」との日々を痛快に描き、多くの読者に支持され、100万部を超える人気作品となりました。寝かしつけや卒乳の苦労を心から笑える面白エピソードに変える手腕は見事です。

◆伊藤理佐『おかあさんの扉』（オレンジページ）

『おいピータン!!』などで知られるマンガ家の伊藤理佐さんが40歳で出産。同じくマンガ家の夫・吉田戦車さんとともに毎日の育児に追われる様子を描いた作品で、2013年から雑誌『オレンジページ』にて連載されています。長女「あーこ」さんの成長とともに家族のさまざまなエピソードが盛り込まれ、育児の面白さを豊かに伝えてくれます。2022年に出版された第11巻には12歳になったあーこさんが登場。夫の吉田戦車さんが「オットの人」や「チチ」として登場し、父親側の視点から書くコラム「おとうさんの扉」コーナーも人気です。

◆カフカヤマモト『家族ほど笑えるものはない』（KADOKAWA）

こちらは、Instagramに掲載されたイラストエッセイ（絵日記）が2017年から2018年にかけて全2巻にまとめて出版された作品です。5歳の息子と2歳の娘、サラリーマンの夫との家族4人の生活が描かれ、Instagramのフォロワー数が12万人という人気作。日常のほんの瞬間がひとコマに切り取られた絵日記が秀逸で、まさに読者の「共感」を集めました。

こうした育児マンガは、子育てに行き詰ったとき、みんな同じように苦労しているんだなと共感できたり、こんな考え方もあるんだなという気付きを得たり、新たな視点に出会うきっかけを与えてくれる力強い味方です。

エッセイマンガのテーマは幅広く、子育てだけでなく、友人関係、恋愛や仕事、働く女性の生活、結婚や離婚などの夫婦の関係、家族との関係、介護や看取り、何か病気を患ったとき…、人生で出会うありとあらゆる場面を網羅しているのではないかと思えるほどです。

他者の経験を共有し、自分の経験を振り返る——。エッセイマンガは、作者と読者の距離が近いマンガというメディアの豊かさを支える裾野の広がりを持っています。TwitterやInstagramをはじめSNSで人気の作品も数多くありますので、ぜひお気に入りの作品を探して、新しい視点に触れてみてください!

<5月のひろばの様子>

【対面わいわいトーク】 5月17日（火）午前10時～11時 参加親子 10組
（親11名 子ども10名 計21名）

テーマ「親子で折り紙遊びを楽しもう」講師：本学教授・子ども室長 上田淑子先生

コロナ禍になってから対面での開催が難しくなっていた「わいわいトーク」、この度やっと実施することが出来ました！講師の上田先生から折り紙についてのお話があり、0歳のお子さんも折り紙を触ってみたり、丸めてみたり破ったり、時には口に入れてしまったりしながらも、皆さん楽しく親子で参加していました。

来月以降も対面での「わいわいトーク」を開催予定です。お子様の様子に合わせて参加が出来ますので、是非皆さまのご参加をお待ちしております。



【お父さんDAY】 5月21日（土）午前9時30分～11時30分 参加親子 7組
（親 7名 子ども 7名 計 14名）

今年度はじめてのお父さんDAYでした。昨年度から継続して来て下さる親子も多く、積極的にお子さんと向き合う時間を作ったり、お父さん同士でお話をして新たなコミュニティが生まれている姿が見えると、私たちスタッフもとても嬉しく思います。

からだを使ったダイナミックな遊び方をしていたり、ゆったりと絵本を読んだり、みんなで一緒にふれあい遊びをしたり、お子さんにとってもきっとよい時間となっていることと思います。お父さんDAYは、土・日・祝日に、月一回程度開催します。ご参加をお待ちしています！



【休日の午後のひろば】 5月21日（土）午後1時30分～3時30分 参加親子 6組
（親 11名 子ども 6名 計 17名）

普段からよくひろばを利用されている方や、昨年度利用されていて仕事復帰等で平日になかなか来ることが難しい方など、色々なご家庭の方が来室されました。親子でゆっくりと遊んだり、ご家族同士での交流をされていたり、みなさん和やかに過ごされていました。平日のひろばも含め、1家庭につき2人まででしたらご家族の方はどなたでもご参加いただけます。お出かけ場所のひとつとしてぜひご利用ください♪



【オンデマンド配信わいわいトーク】 引き続きご利用ください

昨年度はコロナ禍のため、『オンデマンド型』でのわいわいトークをお届けしました。皆さまからは「いつでもわいわいトークが視聴できる」とご好評をいただきましたので、今年度も継続して掲載させていただきます。ぜひ、ご利用ください！



[【甲南子育てひろば】「わいわいトーク」オンデマンド配信のお知らせ](#)

【ひろばのご利用について】

<2022年度の利用対象者>

2019年4月2日～2023年3月31日生まれのお子様と、その保護者
(首が据わってからの参加をお願いいたします)



<ひろば利用時間>

開室日：月曜日から金曜日（水曜日の午後は閉室）

開室時間：午前9時～11時30分 午後1時～3時30分

<新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い>

1. 利用者数の制限について

当面の間、利用者数を制限します。午前・午後、各10組の事前予約制です。

2. 利用希望日の予約方法について

- 1組（家庭）につき保護者の方は2名まで利用できます。

- 予約の受付は、すべて先着順になります。

予約完了後、次の件名のメールが届きますので、ご確認ください。

「【甲南子育てひろば（子ども室）】予約受付のご確認」

- 予約システムでの受付は利用開始時刻までです。

ひろば開室後の利用のお申し込みやキャンセルのご連絡は、電話でお願いいたします。

ひろばご利用の際は、甲南子育てひろばHPの

「甲南子育てひろば 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のお願い」を必ずご確認ください。

ご利用の皆さまにはお手数をおかけいたしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。

<7月の予定>

- 7月15日(金) 午後 水遊び準備のため閉室

- 7月16日(土) 午前(9時30分～11時30分) お父さんDAY
午後(1時30分～3時30分) 休日のひろば開室

- 7月19日(火)～8月31日(水)

午前のみ、テラスで水遊びを行います！※詳しくは7月号で案内いたします。

- 7月22日(金)・29日(金) いずれも午後

未就学児(3歳児～5歳児)も来室OKです！

きょうだい児での来室をお待ちしております！

※ご利用の予約は、予約システムからお申し込みください。

予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter (ID: kw_hiroba) をご覧ください。



【問合せ先】〒658-0001兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23

甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120 MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp

ひろばのTwitterは
臨時閉室等の最新情報をお届けします。
ID: kw_hiroba



【リレートーク！】



先生方のコラムには子育てのヒントが沢山詰まっています！
今月は本学看護リハビリテーション学部看護学科
教授 合田加代子先生より寄稿いただきました。



「目にはみえない大切なもの」

看護リハビリテーション学部看護学科 教授 合田加代子先生

フランスの小説家、サン＝テグジュペリの童話『星の王子さま』。
最近、何年も前に読んだこの本を読み返すことが多くなりました。

この『星の王子さま』に出てくる、「大切なものは目には見えないんだよ。心の目で見ないとね」という有名な言葉をご存知の方は多いことでしょう。自分にとって、かけがえのないものや本当に大切なものは何だったんだろう、と思い巡らしてみることがあります。それは、これまで生きてきた中で、辛かった時、悲しかった時、苦境に立たされた時に、人から受けた思いやりや優しさ、見守り寄り添い続けてくれたことなど、数えきれないほどの「愛」であったことに気づかされます。そして、その「愛」に勇気づけられ、生きる力を与えられ今の自分がいるとしみじみ思います。

公衆衛生看護学という授業がありますがこの中で、学生と共に、ソーシャル・キャピタルについて学ぶ時間があります。これは、人との絆や他者への信頼、互酬性（お互い様）というふだん目には見えない「社会関係資本」のことをいいます。まさに、『星の王子さま』に出てくる「大切なものは目には見えない」という言葉は、ソーシャル・キャピタルの本質が表されていると思います。ハーバード大学の研究では、日本全国206の地域を対象に調査を行い、“隣近所への信頼度が高い地域ほど健康状態がよい”という結果を明らかにしています。このことから、人々の絆や隔たりのない優しい社会といったものが、人々の健康にとっても大きな影響を与えていることに気づかされます。

人を大切にする気持ちは、家族や友人、同僚などとの個人的な信頼のみならず、社会みんなのささやかな幸せや健康づくり、さらには「誰一人取り残されることのない地域づくり」につながっています。

『星の王子さま』はこのことを教えてくれる一冊であると思います。

みなさまもぜひ読んでみてください。

かけがえのない絆で結ばれているお子様への愛おしさがさらに増すことでしょう。



<6月のひろばの様子>

【お父さんDAY】 6月5日（日）午前9時30分～11時30分 参加親子 5組
（大人5名 子ども5名 計10名）

今年度2回目のお父さんDAY。お父さん同士会話を楽しんだり、ミルクを作ったり、おむつ替えや泣いてるお子さんをあやしたり、お子さんとゆったりした時間を過ごされていました。はじめて参加したお父さんは、「お父さんだけの場所って見慣れないですね」というお声もありましたが、ひろばのお父さんDAYはそんな姿がふつうです。お父さんDAYは、土・日・祝に月1回程度開催します。ご参加をお待ちしています！



【休日の午後のひろば】 6月5日（日）午後1時30分～3時30分 参加親子 4組
（大人7名 子ども4名 計11名）

休日ということで親子3人でのご利用も多いひろばでした。今回初めての方も親子でおもちゃで遊んだり、設置している子育て情報を見られたり、各々の時間を有意義に過ごされていました。平日のひろばも含め、1家庭につきご家族の方どなたでも2名までご参加いただけます。ぜひ、休日のお出かけ先のひとつとしてひろばをご活用ください。



【ふれあいあそび】

6月 8日（水） 10時45分～ 参加親子 9組（大人9名・子ども9名 計18名）
6月24日（金） 10時45分～ 参加親子 8組（大人9名・子ども8名 計17名）

2回とも沢山の方が参加してくださいました。お子さんはお母さんに触ってもらったりお母さんの歌声が大好きです。お母さん方には、馴染みのあるわらべ歌などを一緒に歌ってもらい、お子さんの身体を撫でたり、くすぐったり、たくさんお子さんに触れてもらいました。後半は、CDの曲に合わせて、身体でリズムを取ったり、お子さんを抱っこしてしゃがんだり、歩いたりして身体をうごかしました。お子さんたちは、大好きなお母さんにたくさん触れてもらってとっても嬉しそうでした。



【対面わいわいトーク】 6月22日（水）午前10時～11時
参加親子11組（大人11名・子ども11名・計22名）

テーマ「親子で絵本を楽しもう♪」
講師：本学人間科学部総合子ども学科講師・高原 佳江先生

今年度2回目となる対面でのわいわいトークを開催しました。年齢別の絵本の選び方や楽しみ方など、絵本コミュニケーターとしてもご活躍の高原先生だからこそのお話を聞くことができました。絵本の話は、皆さんとても関心があり、質問コーナーではたくさんの質問が出て、とても実りのある時間となりました。早速、絵本を借りて帰られる参加者も多数いらっしゃいました。これを機会に親子で絵本を楽しむ時間がもっと増えれば私たちも嬉しく思います！



「オンデマンド配信わいわいトーク」引き続きご利用ください

昨年度はコロナ禍のため、『オンデマンド型』でのわいわいトークをお届けしました。皆さまからは「いつでもわいわいトークが視聴できる」とご好評をいただきましたので、今年度も継続して掲載させていただきます。ぜひ、ご利用ください！



[【甲南子育てひろば】オンデマンド配信「わいわいトーク」引き続きご利用ください](#)



【リレートーク！】

SDGsから考える私たちの「持続可能な社会」について
国際学部多文化コミュニケーション学科 教授 高橋 真央先生

「あ～、もったいない！

だから戦争を知らない子は、こんなもったいないことをするのよね・・・」

子どもの頃、何度も祖母達に言われた言葉です。戦前、戦中、戦後を過ごしてきた祖母達にとっては、私がペットボトルでお茶を買って飲むことも、簡単にティッシュペーパーを一度に何枚も使ってしまうことも信じられないことでした。日常の些細な事ですが、物のない時代を過ごし、苦労しながら生きてきた彼女たちには私の行動は理解できないものだったのかもしれませんが。子ども心に「こんなことぐらいで、そんなこと言わなくてもいいのに～～～」と思ったことが今ではとても懐かしく思い出されます。

今、私は学生たちに「持続可能な開発目標(以下SDGs:Sustainable Development Goals)」について教えています。2016年から2030年までの15年間のグローバル社会共通の目標についての認知は、年々高まってきています。特にZ世代と呼ばれる学生たちにおいては、SDGsをはじめとする社会貢献やソーシャルビジネスに関する興味が高まっていることを肌で感じています。本学の「ボランティア論」で「17の目標のうち、あなたが一番身近な目標は何ですか?」という問いに対して、今年度は目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」、目標14の「海の豊かさを守ろう」というのが最も多い回答でした。学生たちにその理由を尋ねると、「将来、母となり、働きながら子どもを育てる時に、不安なく過ごせる社会になって欲しいから」「ジェンダーによる差別をなくすことで一人ひとりが自分らしく、幸せを作り、国や社会全体が幸せへとなっていく道だと考えたから」という意見がありました。海の豊かさについても、気候変動問題や環境保全から海洋生物をはじめ、魚などにも影響が及び、海の汚染によっては私たちの生活にも影響が出るから、という声も聞かれました。

SDGsを教えていると、学生たちはグローバル社会の目標に圧倒され、時に自分とは次元が異なるものだと感じてしまうようです。しかしながら、授業内で自分たちの1日の生活の中での話として、エネルギー、食料問題、医療や健康、そして教育、ジェンダーや経済、貧困の問題などを取り上げていくと、身近な問題として考えてくれます。

その折、私は祖母達が小さい頃に私に言った「もったいない！」発言を思い出すのです。彼女たちは、「持続可能性(Sustainability)」という言葉など知らないままに、生活の中でそれを様々な形で実行していたのだと改めて感じます。四季折々の過ごし方、楽しみ方、食材の使い方、余ったものの有効活用など。当時の私には面倒くさいなあと思っていたことが、本当は今の時代の最先端である「Sustainability」の生活を実践していたのだと改めて感じます。

そして、「平和」の意味についても考えさせてくれるのです。夏になると、祖父母達が話してくれた「当時のこと」を思い出します。何気なく聞いていた当時の話を思い出しながら、「平和の尊さ」を覚えてもらった私たちが次の世代に「平和な世界」を引き継がなければならない責任を感じます。

17の目標は、それぞれ5つのP(People; 人間、Planet; 地球、Prosperity; 豊かさ、Peace; 平和、Partnership; パートナーシップ)の要素に関わっていると言われています。この5つの要素のどれ一つ欠けても私達の生活は成立しません。それを改めて学生たちは、自分たちがどのようにこれからの未来に携わっていけば良いのか、将来について悩み、考えているようです。

SDGsを教える時、学生たちに「皆さんは、10年後、20年後、どんな社会、世界になって欲しいと思いますか?そして、皆さんは何を希望しますか?」と尋ねます。学生たちは「誰もが助け合える社会」「世界中の人々が生まれた国や環境に差別されず豊かな暮らしを送れるような社会」とであると答えます。私もまた、彼女たちが生きやすく、そして自信をもって穏やかに暮らせる社会であり、世界になることを願いつつ、彼女たちがその一端を担ってくれることを期待しています。

時折、スクールバスで見かける「子育てひろば」に参加される赤ちゃんたちの様子を拝見し、元気いっぱいの人々/彼女らの未来の可能性を思います。そして、彼ら/彼女らが次の世紀を伸び伸びと平和のうちに自分らしく生きられるように、「持続可能な社会」を実現すべく、祖母達が伝えてくれたメッセージのバトンを通じたSDGsを通して次の世代に伝えていきたいと思っています。



<7月のひろばの様子>

【対面わいわいトーク】 7月13日（水）午前10時～11時 参加親子 4組
（親 4名 子ども 4名 計 8名）

テーマ「安らぎのホルモン『オキシトシン』のひみつ」
本学看護リハビリテーション学部看護学科講師 平田 恭子先生

今回も対面でのわいわいトークを開催しました。
安らぎホルモンの『オキシトシンとは？』オキシトシンが発見された話から始まり、『どうすればオキシトシンは出てくる？』そんな興味深い話で、参加いただいたお母さんたちだけでなく職員も聞き入ってとても勉強になりました。
わいわいトーク中は先生のやさしい声とBGMの音楽で寝てしまうお子さんも。最後の感想や質問タイムでは、お母さんたちが経験談や悩み相談などされて、実りある時間を過ごしていただけたかと思います。
日々の生活でゆったりと心地いい時間を少しでも増やしていただき、また、甲南子育てひろばで過ごされる時間も癒しの時間になればと職員一同思っております♪



【お父さんDAY】 7月16日（土）午前9時30分～11時30分 参加親子 4組
（親 4名 子ども 4名 計 8名）

【休日の午後のひろば】 7月16日（土）午後1時30分～3時30分 参加親子 7組
（親11名 子ども 7名 計 18名）

大学ではオープンキャンパスを実施中でしたが、ひろばでは、午前にお父さんDAYと午後に休日ひろばを実施しました。

お父さんDAYでは、こちらのひろばで出会われたお父さん同士が「お久しぶりです。」と挨拶を交わされ、お互いのお子さんの成長を喜び合っている姿がありました。お子さんと向き合って遊ぶだけでなく、お父さん同士で会話をし、交流されていてお話しも盛り上がっていました。ひろばで、お父さん同士の交流の輪が広がっていくといいですね！お父さんDAYは、土日祝日に月一回程度開催していますので、ぜひお気軽にお越しください♪



午後のひろばは、お父さんとお母さんが一緒に来室されたり、お仕事に復帰されて、平日なかなか来るのが難しいお母さんや初めてひろばを利用する方が来てくださり、親子でゆっくりと過ごされたり、ご家族同士で交流されたりと皆さん和やかに過ごされていました。

最後にふれあい遊びをしたり、CDの曲に合わせて身体を動かしました。

平日のひろばも含め、1家庭につき2人まででしたらご家族の方はどなたでもご参加いただけます。
お出かけ場所のひとつとしてぜひご利用ください♪



【水遊びの様子】

7月20日（水）から水遊びを開始しました。

ひろばの横にあるテラスにテントを張って日陰を作り、水遊び用のおもちゃとお子さんお1人に1つ、ベビープールを用意しました。
生まれて初めて水遊びをするお子さんもいらっしやり、初めはプールの外に座って、手だけパシャパシャと水に触れたり、慣れてきたら、プールの中に入って、じょうろやバケツでダイナミックに自分の体に水をかけたりしていました。
遊び方は様々ですが、それぞれ思い思いに水遊びを楽しんでいます♪
終わった後は、しっかり水分補給をして室内でゆっくり過ごされていました。



天候や気温・水温によって水遊びを中止することもあります。8月も末日まで水遊びを実施予定です。別紙「～水遊びの利用について～」をご確認の上、ご参加ください。

【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。
前年度利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、学生さんがわかりやすく紹介して
くださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、好本未緒さん『ティモシーのたからもの』作・絵：芭蕉みどり / 株式会社ポプラ社
太田美音さん『どっちがへん？スペシャル』著：いわいとしお / 株式会社紀伊國屋書店を
ご紹介させていただきます。


好本未緒

ティモシーのたからもの

作・絵 / 芭蕉みどり
発行 / ポプラ社
(1999年1月)
サイズ / 18.9cm x 13.4cm
対象年齢 / 3～5歳
同じ作者の絵本
・サカスのあそび おおきくおもしろ
(森山京作)

あらすじ
・ねずみのこ ティモシーとサラは
かわて じぶんてつくったすいしやを
まわそうとしました。しかし、ティモシーの
はまわりません。もういちどつくって見た
のですがまわるのでしょうか？

おすすめの理由
・本のサイズが小さめなので一人でも読み
聞かせてもやりやすいサイズです。
物語がしっかりしていて素敵なお話
でもう一度読み返したくなる絵本です。



どっちがへん？ スペシャル

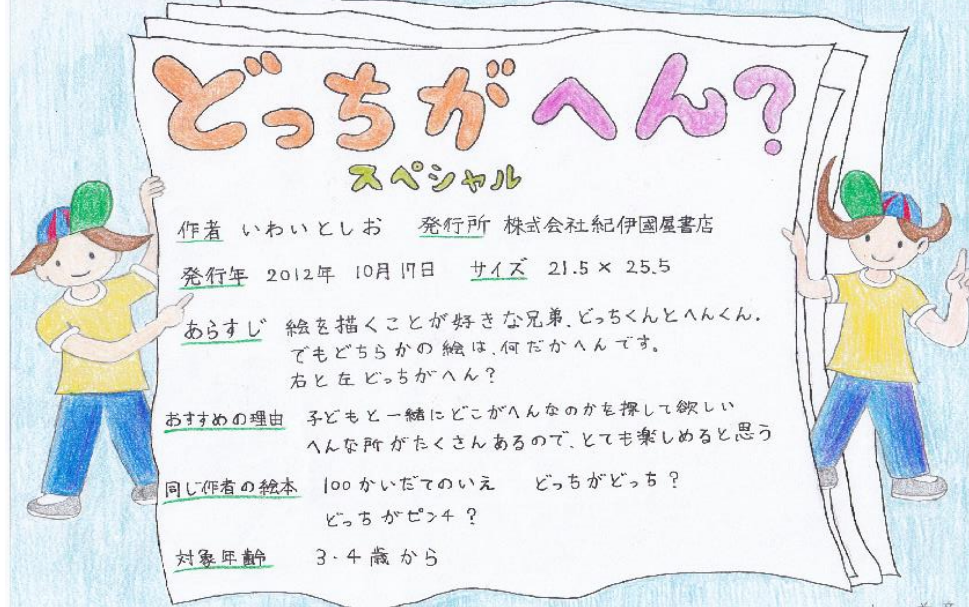
作者 いわいとしお 発行所 株式会社紀伊國屋書店
発行年 2012年 10月17日 サイズ 21.5 x 25.5

あらすじ 絵を描くことが好きな兄弟、どちくんとへんくん。
でもどちらかの絵は、何だかへんです。
右と左どっちがへん？

おすすめの理由 子どもと一緒にどっちがへんなのかを探して楽しい
へんな所がたくさんあるので、とても楽しめると思う

同じ作者の絵本 100かいだてのいえ どっちがどっち？
どっちがピ>4？

対象年齢 3・4歳から



太田美音



9月の予程

- 9月4日(日)
午前9時30分～11時30分 お父さんDAY
午後1時30分～3時30分 午後のひろば
- 9月19日(月) 敬老の日のため閉室
- 9月23日(金) 秋分の日のため閉室

※看護学科の学生が実習で来室される日があります。
詳細は9月のカレンダーに掲載いたします。



※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba)をご覧ください。



【問合先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)
TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

和食を食事に取り入れ「うま味」を味わいましょう

人間科学部生活環境学科 教授 濱口郁枝先生



口の中には、味を感知する「味蕾（みらい）」という器官が、舌、上あご、喉にあります。味蕾は、味細胞が数十個集まり、花の蕾のような形をしています。その味細胞には、甘味、酸味、塩味、苦味、うま味の各物質の情報を受け取る受容体があり、その情報は味覚神経を介して速やかに脳に伝えられ、食物の味を知覚しているのです。この味蕾は、赤ちゃんでは約1万個ありますが、加齢とともに減少し、大人では7,500個くらいにまで減少します。したがって、赤ちゃんは微妙な味の違いがわかるので、離乳食の味つけを薄くします。

基本の味は、甘味、酸味、塩味、苦味の4つであると長く思われてきました。しかし、東京帝国大学（現 東京大学）の池田菊苗博士は、この4つの味では説明できない、もうひとつの味「うま味」を昆布だしから発見しました。

うま味の受容体は、口の中だけではなく胃にもあり、胃に食物が入ると、胃の受容体があま味物質（グルタミン酸）をキャッチします。すると、その情報は神経を介して脳に伝わり、次に、脳から胃へタンパク質の消化吸収を始めるための指令が送られ、唾液や消化液が分泌されて、タンパク質の消化をスムーズに進めることができるのです。

主なうま味物質は、グルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸です。グルタミン酸は、昆布のほか、肉や魚、野菜など、多くの食材に含まれています。イノシン酸も、肉や魚など動物性の食材に多く含まれており、グアニル酸は干し椎茸など、乾燥したきのこに多く含まれています。また、お母さんのお腹の羊水には、うま味物質のグルタミン酸が含まれていますので、赤ちゃんにとって、うま味は生まれる前から慣れ親しんでいる味といえるでしょう。そして、母乳にもうま味物質のグルタミン酸が豊富に含まれているのです。

うま味は、素材そのものの味を生かすことができますので、うま味が含まれている食材を用いることで、味つけを濃くしなくてもおいしく味わうことができます。幼い頃からこのようなうま味を味わい、和食に慣れ親しむことが大切です。成長するに当たって、ファストフードなどを食べたい時期は必ずやってきます。しかし、その時期を過ぎると、幼児期に体験した懐かしい和食を食べたいくなり、うま味を味わうことで身体も心も落ち着くことができます。

家庭での食育として、日本の伝統的な栄養バランスの整った和食を食事に取り入れ、日本人が発見したうま味を味わうことを、子どもの頃から積極的に経験させてあげましょう。



<8月のひろばの様子>

【お父さんDAY】

8月6日(土)午前9時30分～11時30分

大雨警報発令のため臨時閉室



【休日午後のひろば】

8月6日(土)午後1時30分～3時30分 参加親子10組
(親14名 子ども10名 計24名)

今回のお父さんDAYは大雨警報が発令していたため臨時閉室となりました。たくさんご予約をいただいて、職員も楽しみにしていたのでとても残念でしたが、皆さんの安心安全のための閉室にご理解をいただきありがとうございます。午後のひろばは快晴になり、午前来れなかった方やお父さん・お母さんと3人でご利用される方もいたり、満員の10組の親子に来室していただき、穏やかに楽しい時間を過ごしていただけたと思います。平日のひろばも含め、1家庭につき2人まででしたらご家族の方はどなたでもご参加いただけます。お出かけ場所のひとつとしてぜひご利用ください♪

【対面わいわいトーク】

8月25日(木)午前9時45分～10時45分

参加親子8組(親8名 子ども8名 計16名)

テーマ：産後のママのからだを守るために

～育児動作で気を付けたいことと姿勢を整えるトレーニング～

講師：本学看護リハビリテーション学部理学療法学科教授 山本綾子 先生

今回も対面でのわいわいトークを開催しました。

山本先生から産後のママが元気に過ごすための身体の使い方や姿勢を整えるトレーニングのお話もあり、参加者のみなさんはヨガマットの上で実際に身体を動かして体験されていました。また、最後の抱っこ紐についてのご相談では、個別で山本先生とお話しされていて、少しでもお悩み解決の糸口になったのではと思っています。



【7・8月のひろばあれこれ】

七夕には利用者の方々に短冊と七夕製作をしていただきました！今年はお顔を書いてもらったのですがみなさんどことなく自分のお子さんに似せているようで、どれもとても可愛らしく素敵な七夕製作でした♪もう一枚の写真は、親子で協力して作っていた車庫です！立派な出来に思わずお写真を撮らせていただきました☆ブロックの遊び方は無限大ですね！



<8月末で今年度の水遊びが終了しました！>

おそろおそろ水を触ったり、ベビープールに入ってダイナミックに自分に水をかけたり、思い思いに水遊びを楽しんでいました！今年腰が据わっていなかったお友達は、また来年お楽しみに♪



【7月・8月末就学児来室日の様子】

7月22日(金)・29日(金)

8月 5日(金)・26日(金) 午後のひろば

3歳児～5歳児のお兄さん・お姉さんがたくさん遊びにきてくれました！大きな模造紙に自由に絵を描いたり、シールを貼ったり、線路や電車があるだけつなげたり、赤ちゃんの遊び方とはまた違った遊びをする幼児さんに、乳児さんたちも興味津々な様子でした。また、自分より小さな友達に玩具を譲ってあげたり、きょうだい児と一緒に遊ぶ姿が見られ、賑やかなひろばとなりました。乳児さんにとっても、よい刺激になっていれば嬉しいです。



今後も利用者の皆様のご意見を聞きながら、未就学児来室の日を設定していけたらと思いますので、ご感想などお待ちしております♪



【「わいわいトーク」オンデマンド配信継続のお知らせ】

当ひろばの「わいわいトーク」とは、大学教員が中心となって進める座談会・講演会に加え、ハロウィンパーティーなどの季節を楽しむイベントも含まれます。

コロナ禍のため、2021年度から始めたオンデマンド型の「わいわいトーク」は、2022年度も継続します。引き続き、ぜひご視聴ください！

【甲南子育てひろば】「わいわいトーク」オンデマンド配信のお知らせ



【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。
前年度利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪


今月は、秋田百香さん『だるまさんが』作：かがくいひろし / 株式会社プロンズ新社
今峯愛加さん『ぜったいぜったいひみつだよ』文：アナ・カン 絵：クリストファー・ウェイアント
訳：木坂涼 / 株式会社ほるぷ出版 をご紹介させていただきます。
※絵は学生の作品で、絵本の絵ではありません。

あらすじ

「だるまさんか」に続く言葉と言えは、「**軍団だ**」がお馬鹿染みのフレズです。ところが、この作品は「だるまさんか」の言葉にアレンジを加えた作品です。

おすすめの理由

「だるまさんか」のお決まりのフレズから、ハロウィンを捲ると軍団だり、買水たり、意外な動きをしていて、次はどんなことがおこるかというワクワク感が味わえます。



だるまさんが

印象に残った場面

私の印象に残った場面の絵は、だるまさんか「**びろーん**」とのびているところ。手がちょこんとし、ていところかとてもかわいいです。

作: かがくい ひろし
発行所: プロンズ 新社
発行年: 2008年1月1日
サイズ: 175mm x 175mm

秋田 百香

作品情報

文 アナ・カン
絵 クリストファー・ウェイアント
訳 木坂涼
発行所 株式会社ほるぷ出版
発行年 2017年4月28日
サイズ 24cm x 24cm

ぜったいぜったい ひみつ だよ


あらすじ

かえるのワロワロには、誰にも言えないひみつがあります。それは水が怖くて泳げないこと。今まで色んな本を使って隠してきましたが、ついにババとママに話さ断絶します。しかし、決断したもののなかなかに言いたくないワロワロ。ほら、ワロワロはひみつを話せることができるのか。そして氷を克服することができたのでしょうか？

感想

まず、ワロワロのなんとも言えない表情がかわいくて一目惚れしました。またこの絵本は読み手に語りかけるような書き方になっているので読みやすく、お子さんも楽しめる絵本になっていてオススメです！


その他 アナ・カンさんの本
・おしえておしえてわむりかた
・だれのいす？



今峯 愛加

※ご利用の予約は、予約システムからお申し込みください。予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter (ID:kw_hiroba) をご覧ください。



03idTwitter 03idTwitter 03idTwitter 03idTwitter

【問合先】
〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

先生方のコラムには子育てのヒントがたくさん詰まっています！
今月は本学人間科学部総合子ども学科 教授 石渡 正志先生よりご寄稿いただきました。

「子どもは自然が大好き」

人間科学部総合子ども学科 教授 石渡 正志先生

乳幼児を野外で遊ばせると、決まって植物や虫に見入ったり、水や砂に触れたり、石ころを集めたりします。それを4,5歳になるまで毎日でも続けます。その後、野外で遊ぶ環境があれば虫取りや木登り、枝や葉の工作など様々な遊びを自分から作り出し、飽きもせず続けます。小さな子どもは自然が大好きなのです。



ただし、なぜこのようなことをするのかはよく分かっていません。ヒトという生物の生理的欲求なのでしょう。小さな子どもは人間として育てていくだけでなく、いやそれよりむしろ動物(サル的一种)として成長しています。そのときに生理的欲求を満たさないと、生物としての成長に何らかの悪影響を与えかねません。



チンパンジーやゴリラの子どもは、数百万年前から今に至るまで自然の中だけで遊びながら育っています。ヒトの子どもも、最近の1000年程度を除けば他のサルと同じように数百万年間自然の中だけで遊んでいたのです。そのような歴史を振り返ると、どちらがヒトにとって「普通の」または「当たり前の」育ち方がわかります。



また、子どもの頃の自然との触れあいが、その後の成長に影響を及ぼす可能性があることがわかってきています。例えば、国立青少年教育研究機構が2010年に出した報告書では、小学校低学年で「動植物とのかかわり」の経験が多い人ほど、社会人・家庭人として大切な「共生感」「規範意識」「職業意識」「人間関係能力」「文化的作法・教養」のレベルが高いというアンケート結果が示されています。より良い人間として育つためにも自然との触れあいが大切なのかも知れません。

お母さん方の中には、草むらや虫といった自然が苦手という方が多いのではないかと思います。お子さんのためにぜひ一緒に自然を楽しんでもらいたいと思います。まずは、植物や虫がたくさんいる公園や川岸、海辺などからいかがですか。



<9月のひろばの様子>

【お父さんDAY】

9月4日(日)午前9時30分～11時30分 参加親子9組
(親9名 子ども9名 計18名)

今回は9組ご利用いただき、ひろば内は活気あふれる雰囲気でした。お母さんと来室している時とは違った表情や遊び方が見られました。また、数人のお父さんが一斉にお子さんを抱っこしながらひろば内を歩いている様子は、とてもほほえましかったです。最後に絵本にあわせて高くお子さんを持ち上げる姿は、力持ちのお父さんならではの♪お子さんもとってもいい笑顔でした！お父さんDAYは、土・日・祝に月1回程度開催します。ご参加をお待ちしています！



【休日午後のひろば】

9月4日(日)午後1時30分～3時30分 参加親子5組
(親8名 子ども5名 計13名)

休日午後のひろばは、今回も親子3人で利用される方も多く、ひろばの様々なコーナーを移動しながら、ゆったりと過ごされていました。図書コーナーでは真剣なまなざしで本を選ばれている姿もありました♪平日のひろばも含め、1家庭につきご家族の方どなたでも2名までご参加いただけます。ぜひ、休日のお出かけ先のひとつとしてひろばをご活用ください♪

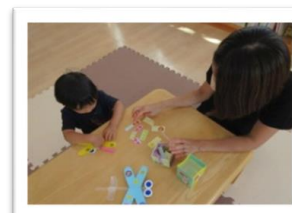


【9月の製作とふれあい遊びの様子】

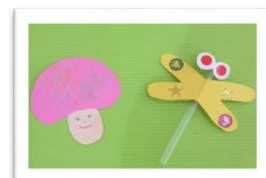
開室時にいつでもできる製作とお片付け後のふれあい遊び・手遊びを毎月変え、利用者の方に楽しんでもらえるようにしています。

《製作》

9月の製作は、きのこ型の台紙に指スタンプでポンポンと模様をつけて、可愛いきのこを作りました。月齢の小さなお子さんもお母さんと一緒に楽しんでいました。



もう一つは、とんぼの羽にシールを貼ったり、お絵描きで模様を描き、その羽をストローにつけて羽をパタパタと動かせる、“パタパタとんぼ”を作りました！出来上がったとんぼをパタパタさせて、ひろば内をお散歩するお子さんもいました♪



《ふれあい遊び》

ひろばでは、午前、午後の一回ずつ、ふれあい遊び（又は手遊び）と絵本や紙芝居の読み聞かせをしています。9月のふれあい遊びは、『りんごコロコロ』でした。たくさんのフルーツや野菜が歌詞に出てきます。それをペープサートにして、見せながら、ふれあい遊びを楽しみました。お家でもぜひお子さんと楽しんでくださいね♪

～歌詞をご紹介します～



1番

りんごコロコロ りんごコロコロ
みかんカンカン みかんカンカン
ピーマンピッピー ピーマンピッピー
かぼちゃぼちゃぼちゃ かぼちゃぼちゃぼちゃ

2番

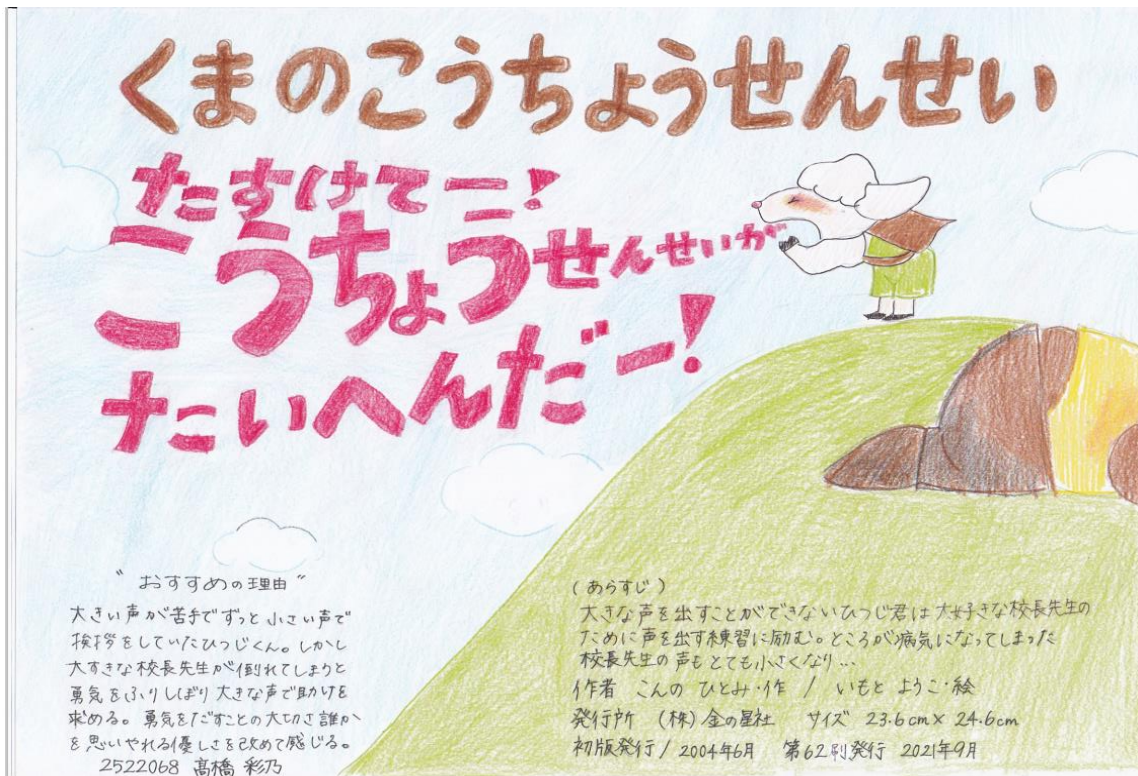
パイナップルブル パイナップルブル
ぶどうブブブー ぶどうブブブー
とうもろコシコシ とうもろコシコシ
バナナパイパーイ バナナパイパーイ

【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。

前年度利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、
学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、高橋彩乃さん『くまのこうちょうせんせい』このみとみ 作・いもとようこ 絵/株式会社金の星社 刊
徳永あいさん『こぶたのかばん』佐々木マキ 作/株式会社金の星社 刊
をご紹介させていただきます。



(c) Maki Sasaki 2004 / Medialynx Japan Co., Ltd.

※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba) をご覧ください。



【問合せ先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

先生方のコラムには子育てのヒントがたくさん詰まっています！
今月は本学人間科学部総合子ども学科 教授 西尾新先生よりご寄稿いただきました。



「『世界』が変わる毎日」

人間科学部総合子ども学科 教授 西尾 新 先生



子どもって本当にすぐ大きくなりますよね。乳児のころなんか、3カ月で様子が全然ちがいます。久しぶりに会った赤ちゃんなんてもう、別人のようです。体の成長に伴って、できることもどんどん増えていきます。寝返りからハイハイできるようになって、座れるようになったら、もう立っちゃった。こんな大きな変化がたった1年の間に起こってしまうわけです。私たち親から見ると子どもの成長は、「抱っこが大変」とか「動けるようになって目が離せない」とか、子どもへの関わり方が変わっていくことなのですが、この変化を子ども自身から見たらどんな感じなのでしょう。

子どもからしたらきっと「座れるようになったら、遠くまで見渡せるようになったなあ」とか「つかまり立ちができるようになったので、テーブルの上のものにもさわれるようになったぞ」ということなのでしょう。見えなかった場所が見えるようになり、さわれなかったものがさわれるようになり、つまり今までの「不可能な世界」が「可能な世界」に変わる、ということなのですね。心理学ではこのことを「アフォーダンスが変化する」と言います。アフォーダンスとは「行為可能性」と言い換えてもいいかもしれません。この行為可能性が変化するということは、「（自分にとっての）世界の意味が変わる」ということです。自分の周りにある「遠くから眺めるしかできない世界」だったものが「近づいて観ることのできる世界」に、「さわれない世界」だったものが「さわれる世界」に変化するのです。

子どもにとって体の成長は、同時に世界に対する行為可能性の変化であり、それが毎日のように起こるわけです。そりゃあ楽しいに決まっています。毎日ワクワク・ドキドキでしょう。そんな毎日を過ごしているなんて、羨ましいですよ。心理学者なら、いや大人は誰でも(?) そんなワクワク・ドキドキをもう一度味わってみたいと思います。もう一度子どもに返って、子どもがどんな経験をしてるのか味わいたい。子育て、そのワクワク・ドキドキを子どもと一緒に追体験できる機会なのかなあとおもいます。子育てが終わった私としては、その追体験も羨ましい。

・・・あれ? ありました! 私にももう一度そんな経験をする機会が。老化です。

身体が急激に変化し(衰えていきますよね)、今までできていたことなのに「あれ? できない」って思う時が近い将来やってきます。なんだか残念な世界の変化のように思えるかもしれませんが、大丈夫。私たちには子どものころにはなかった知恵と子どものころから変わらない好奇心がある。「できない」世界で「どうやったらできるか」を考える楽しみがきっとあるでしょうし、その時には、成長した子どもが伴走してくれるはずですよ。

<10月のひろばの様子>

【わいわいトーク】 10月19日(水) 10時~11時 参加親子 10組

テーマ：英語のリズムを体感しよう♪

講師：本学人間科学部総合子ども学科 准教授 中田葉月先生

まず最初に親子で製作をしました。オレンジのマスクに黒色の目と口をつけてもらい、お母さんたちは、ジャック・オ・ランタンのお顔に♪音楽やひろばの装飾もハロウィン一色の楽しい雰囲気の中、「英語のリズムを体感しよう♪」というテーマでお話ししていただきました。英語の絵本の読み聞かせやテレビ映像では、繰り返しの表現を体感したり、歌を歌ったり、振り付けを真似たりして英語のリズムに親しみました。英語に対する関心が高い方が多く、わいわいトーク終了後もたくさんの方が個人的に先生にご質問されていました。



【お父さんDAYと午後のひろば】

【お父さんDAY】 10月22日(土) 9時30分~11時30分
参加親子9組(大人9名・子ども9名・計18名)

【午後のひろば】 10月22日(土) 13時30分~15時30分
参加親子6組(大人11名・子ども7名・計18名)



午前のお父さんDAYでは、いつもご利用してくださっているお父さん達の和やかな雰囲気の中、初めましてのお父さん達も「お子さん、おいくつですか？」から交流が始まっていました♪お父さんDAYは、土・日・祝に月1回程度開催します。ご参加をお待ちしています！

午後の休日のひろばはお父さんとお母さん、お子さんの3人で利用される方が多いので、参加組数は少なくてもひろばの中はとっても活気にあふれています。月齢の近いお子さん同士と一緒に遊んだり、おもちゃの取り合いになったりする姿も大切な成長過程のひとつ♪そんな様子もひろばで体験していきましょう☆平日のひろばも含め、1家庭につきご家族の方どなたでも2名までご参加いただけます。ぜひ休日のお出かけ先のひとつとしてひろばをご活用ください♪

【看護学科保健師実習生の健康教育】

10月24日(月)9時30分~11時30分 参加親子7組(大人7名・子ども7名・計14名)
テーマ：ヒヤリ！をホッとに~おうちでの事故予防対策~

看護学科の保健師を目指す学生が、お家の中の危険につながる場所や物、事柄、それに対する事故予防策についてお話ししてくれました。参加されたお母さんたちからは、「改めて事故につながる場所はないか家の中の確認をしようと思います」という声が聞かれました。

実習にご協力してくださった皆様ありがとうございました。



【新しいスタッフのご紹介】

ひろばに新しい先生が加わりました！
これからどうぞよろしくお願いたします。

10月より子ども室のスタッフに仲間入りしました。
まだまだ緊張の毎日ですが、早くみなさんと一緒に
楽しく過ごせるように頑張ります。
どうぞよろしくお願いたします。



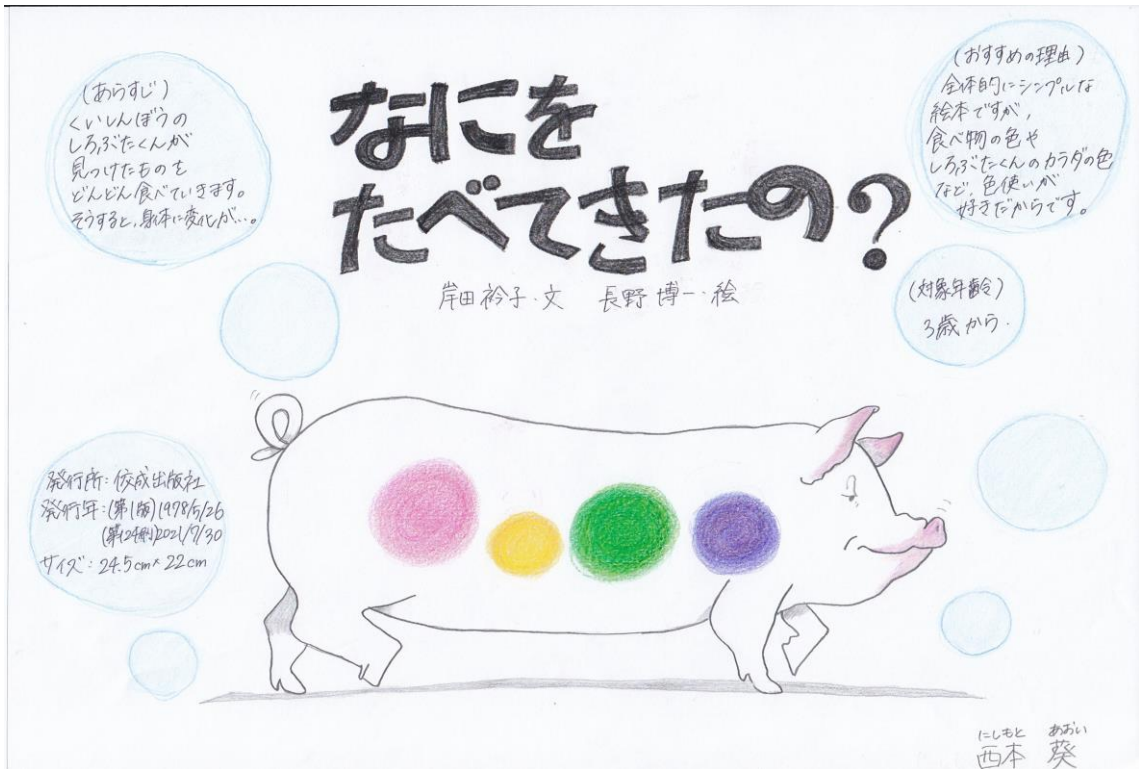
うるしま先生

【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。

前年度利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、
学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、西本 葵 さん『なにをたべてきたの?』文：岸田 衿子 絵：長野 博一/株式会社佼成出版社
三木 萌香さん『そらまめくんのベッド』作・絵：なかや みわ/株式会社福音館書店
をご紹介させていただきます。



※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba) をご覧ください。



【問合先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

先生方のコラムには子育てのヒントがたくさん詰まっています！
今月は本学人間科学部心理学科 教授 卯月研次先生よりご寄稿いただきました。



「さわる」と「ふれる」

人間科学部心理学科 教授 卯月研次先生



一方の手で逆側の手にさわってみてもらえますか？では、今度は、同じ手で同じようにふれてみてください。

「さわる」と「ふれる」の違いはありましたか？この問題に向き合っているのが、伊藤亜紗さんの「手の倫理」という本です。伊藤さんは、「目の見えない人は世界をどう見ているのか」等の著者で、障害のある人との交流等を通して、新しい発想に気づかせてくれる、私の大好きな研究者です。

さて、「さわる」と「ふれる」の話に戻ると、「さわる」という時には、あまり深く考えずに、シンプルにさわった感じがしませんか？一方で、「ふれる」という時には、もっと慎重に、ゆっくり、そっと手を動かしたのではないのでしょうか？同じ触覚の動作なのに、この2つには違いがあるのです。本の中では様々な観点からの比較がなされていますが、私なりに簡単にまとめると、「さわる」という時には物としての性質を確認するような一方的な行為で、「ふれる」という時には、ふれられる側のことを考えていて、そしてふれられる側もそれを受け入れている時に成立する相互的な行為と言えそうです（ふれられる側が「痛い」「不快」と感じるのであれば、それは「さわられている」という表現の方が当てはまります）。

子どもに接する時はどうでしょうか？病気やケガの程度を確かめる時は客観的に「さわる」面が強く、泣いている子を安心させる時にはやさしく「ふれる」感じなのではないでしょうか（同時に両方ということもありますね）。触覚には実は色々あり、①表面をなでる、②包み込むように触れる、③輪郭をなぞる、④圧をかけて押す、⑤手のひらで受ける、⑥静かに手を置く、等があり、それぞれで得られる情報が違うといえます（どう違うか、確かめてみてください）。私たちは、こんなふうに自然に触覚の特性を使い分けているんですね。そして、「ふれる」側と「ふれられる」側の間で、お互いに気持ちやメッセージを伝えあうコミュニケーションも生じます。握っている子どもの手から、安心や楽しさが伝わってくることもありますし、断固とした意志や強い自己主張が伝わってくることもありますよね？

寒い季節は、抱っこしたり手を握る時にお互いの体温もよく感じられます。触覚の色々な側面を意識してお子さんとの時間を楽しんでみてはどうでしょうか。

（参考文献：伊藤亜紗「手の倫理」講談社選書メチエ）

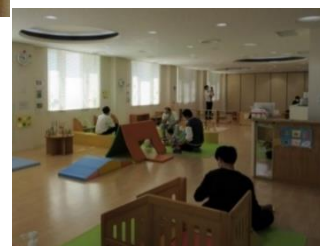
<11月のひろばの様子>

【お父さんDAY】

11月3日（木）9時30分～11時30分

参加親子 10組（大人10名・子ども10名・計20名）

今回は生後4カ月～1歳7カ月のお子さんとお父さんが参加してくれました！毎回参加していてひろばに慣れているお父さんが、はじめて来室する親子に話しかけていたり、おまごとコーナーのテーブルに2・3組の親子が集まりやり取りをしている様子はとても微笑ましく、素敵な親子の交流ができていたのではないかと思います。長いようで短い乳幼児期のお子さんとの思い出のひとつとしてこのひろばを利用したことを覚えていてくださると私たちも嬉しく思います♪



【休日のひろば】

11月3日（木）13時30分～15時30分

参加親子 3組（大人6名・子ども4名・計10名）

偶然にも3組とも家族3人や4人で利用してくださいました☆いつも何気なく触ってしまう携帯電話をカバンの中に入れて、家事などのやらなければならないことを考えずに親子で向き合う時間は今の時代貴重なものだと思います。寒くなってくる時期なので室内の暖かいひろばを利用してお子さんと遊んでみてくださいね。



【小児科医

八木先生来室】

11月8日（火）9時30分～10時

ひろばでは毎月一回程度、本学人間科学部総合子ども学科教授・小児科医の八木先生に來室していただき、子どもの成長発達についての相談や離乳食・睡眠など、色々なご相談をお聞きする時間を設けております。子どもをひろばで遊ばせながら気軽に小児科医の先生に質問や相談ができます。ぜひ皆さまのご利用をお待ちしております♪



【わいわいトーク】

11月15日（火）10時～11時

参加親子 8組（大人8名・子ども9名・計17名）

テーマ：秋の植物観察と植物を使った遊び方

講師：松村 俊和先生（本学人間科学部生活環境学科 教授）

暖かい日差しが気持ちのよい秋晴れの中、親子でゆっくりと学内をお散歩しながら、敷地内にある植物について松村先生に教えていただきました。集めた葉っぱを上を振り上げ、クルクル落ちてくる様子を見たり、松の葉で松葉相撲をしたり、葉っぱをちぎって香る匂いが何の匂いに似ているか当てたり、楽しみながらもお母さんたちは興味深そうに植物の特色についてお話を聞いていました。そんな中、お日さまに当たって気持ちよくなり、お母さんの抱っこの中ウトウトと寝てしまうお子さんも・・・zzz

お散歩中に拾った葉っぱや木の実はお土産にして持ち帰りました♪とっても楽しい屋外でのひと時となりました！



【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。

前年度利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、
学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、森本 花歩さん『にゃーご』作・絵：宮西 達也/鈴木出版株式会社 をご紹介させていただきます。



2023年1月の予定

10日（火）～ ひろば開室

19日（木）・20日（金）大学入試のため閉室

来年も甲南子育てひろばで皆さまに
会えることを楽しみにしております。
体調にお気を付けて、楽しい年末年始を
お過ごしください♪

来年もどうぞよろしくお願いたします(*^▽^*)



※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba) をご覧ください。



【問合先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

先生方のコラムには子育てのヒントがたくさん詰まっています！
今月は本学人間科学部総合子ども学科 教授 伊藤 篤先生よりご寄稿いただきました。



多様性（ダイバーシティ）を意識した子育て



人間科学部総合子ども学科 教授 伊藤 篤 先生

2000年を迎えて以降、わが国でも「多様性」に関する議論が進んできています。企業における多様な人材の受け入れという文脈で頻繁に使われるようですが、もともとは、アメリカにおいてマイノリティー（特定の人種）や女性を積極的に採用し差別のない処遇を実現するために広がった考え方です。また、日本においては、人種・宗教などよりは、性別・価値観・ライフスタイル・障害などに注目した多様性として捉えられている傾向があるようです（DIGITALIO, Inc.コトバンク「ダイバーシティ」より）。最近よく耳にするようになったLGBTQという言葉は、セクシャル리티の多様性です。

東京大学の林香里教授は、「海外から見ると、日本はサービス精神と秩序に溢れ体感的に“なめらかな社会”と見られているが、異なる生き方をする・あるいはせざるを得ない人たちを冷酷に弾き出すか、さもなければ徹底した管理下に置こうとする圧力が働いている社会である」と分析・指摘しています（朝日新聞デジタル・論壇時評2022年10月27日5:00より）。

近い将来、日本社会がどのような姿になっていくのかを正確に予測することは難しいですが、発達障害と呼ばれる人の増加、外国人労働者の受け入れ（移民）の増加、性的マイノリティーであることを開示する人の増加などを考えれば、多様な人々が共存・共生する必要性は益々高まっていくと思われれます。今はまだ幼い子どもたちも、そうした社会で生きていくこととなります。

こうした状況を問題意識として、私のゼミ生の一人が卒業研究の一部として「障害理解に生かす絵本教育」という章を書きました。障害に関する絵本を読むことを通して一障害児・者と接するという直接の経験がなくても一、小学生までに、障害理解に関する発達過程・5段階（気づき→知識化→情緒的理解→態度形成→受容的行動）のうち、情緒的理解の段階まで進むことが紹介されています。

今はまだ難しいかもしれませんが、就学前あたりから、お子さんの障害にかかわるダイバーシティ理解に関する発達の契機として、障害に関する絵本をさりげなく他の一般的な絵本と一緒に家庭の本棚に紛れ込ませておくのはいかがでしょうか。日本で出版されているものは、それほど多くないようです。ご参考までに、上記論文で紹介されている絵本やその他の絵本に関する情報を以下に示しておきます。

- ・タイトル：さっちゃんのまほうのて
作：たばたせいいち（絵本作家）先天性四肢障害父母の会のべあきこ しざわさよこ（共同制作）出版社：偕成社（1985）
- ・タイトル：どんなかんじかなあ
文：中山千夏 絵：和田誠 出版社：自由国民社（2005）
- ・タイトル：みえるとかみえないとか
作：ヨシタケシンスケ そうだん：伊藤亜紗 出版社：アリス館（2018）
- ・タイトル：すずちゃんののうみそー自閉症スペクトラム（ASD）のすずちゃんのママからのおてがみ
文：竹山美奈子 絵：三木葉苗 監修：宇野洋太 出版社：岩崎書店（2018）
- ・タイトル：ぼくは川のように話す
文：ジョーダン・スコット 絵：シドニー・スミス 訳：原田勝 出版社：偕成社（2021）



<12月のひろばの様子>



【お父さんDAY】

12月3日（土）9時30分～11時30分
参加親子 8組（大人8名・子ども8名・計16名）

今回初めて参加されたお父さんも、お子さんの名前や月齢の紹介から自然に交流が始まっていました。お子さんの興味がありそうなおもちゃを見つけて遊んだり、絵本の読み聞かせをする姿から、お家での様子が想像できてほほえましい瞬間でした。また、他のお子さんとのふれ合いの中から「うちの子もこんなことします！」と共感されて会話も広がっていました。お父さんDAYは、土・日・祝に月1回程度開催しています。ご参加をお待ちしています！

【休日のひろば】

12月3日（土）13時30分～15時30分
参加親子 4組（大人6名・子ども4名・計10名）

お父さんとお子さん、お母さんとお子さん、親子3人だと色々な方が休日の午後をそれぞれに楽しんで過ごされていました。図書コーナーでは親子でお気に入りの絵本を楽しそうに見ていたり、たくさんの絵本の中から借りて帰る絵本をじっくり選んでいたりする姿が見られました。平日のひろばを含め、1家庭につき2人まででしたらご家族の方はどなたでもご参加いただけます。親子でゆっくり過ごすお出かけ場所のひとつとしてぜひご利用ください♪



【小児科医 八木先生来室】 12月6日（火）9時30分～10時

ひろばでは毎月一回程度、本学人間科学部総合子ども学科教授・小児科医の八木先生に來室していただき、子どもの成長発達についての相談や離乳食・睡眠など、色々なご相談をお聞きする時間を設けております。子どもをひろばで遊ばせながら気軽に小児科医の先生に質問や相談ができます。ぜひ皆さまのご利用をお待ちしております♪



【わいわいトーク】

12月5日（月） 10時～11時
参加親子 8組（大人8名・子ども8名・計16名）

テーマ：♪自分のことばで歌ってみませんか♪
講師：坂井 康子先生（本学人間科学部総合子ども学科 教授）

今回は、親子で楽しめるわらべうたをみんなで一緒に楽しみました。わらべうたは手遊びとは違い、“それぞれの家庭で自由に作られていくもの”とのことで、わいわいトーク中にも即興で思うままに歌をうたい、おいものわらべうたを作りました。利用者の皆さんにとっては新鮮な体験だったと思います！また、それぞれの家庭でお子さんがお気に入りの歌を一人ずつお話していただき、みんなで手のひらサイズの鈴やマラカス、太鼓などの楽器を持って歌に合わせて鳴らして遊びました。様々な音がひろば中に広がり、ミニ音楽会のような感じでした♪



【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。

前年度利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、
学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、河野 心菜さん『はじめてのおつかい』作：筒井 頼子/絵：林 明子/株式会社 福音館書店 を
ご紹介させていただきます。



2023年2月・3月の予定

2月25日 (土)
お父さんDAY・休日のひろば

3月3日 (金)
入試のため閉室

3月21日 (火)
お父さんDAY・休日のひろば
2022年度通常ひろば最終日

※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba) をご覧ください。



【問合せ先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

先生方のコラムには子育てのヒントがたくさん詰まっています！
今月は、本学国際学部国際英語学科 教授
ウォント盛香織先生よりご寄稿いただきました。

多文化ルーツを持つ子どもたちとの暮らし —アメリカの経験を参考にして—



国際学部国際英語学科 教授 ウォント盛香織先生



多文化ルーツを持つ子どもとは誰なのか、その定義は人によって異なるかもしれませんが、ここでは、親の国籍や人種、民族等の違いから、一つ以上の文化ルーツを持つ子どもたちと定義します。いわゆる「ハーフ」と呼ばれる子どもたちです。

多人種社会のアメリカにも、多文化ルーツを持つ子どもたちが多くいて、私はそうした子どもたちの研究をしています。そうした子どもたちの子育てに関するアメリカの知見を、日本に生きる多文化ルーツを持つ子どもたちの子育てに役立てるようなお話しを書いていきたいと思います。

アメリカではかつて、異人種間結婚が禁止されていたことから、その結婚当事者だけでなく、そこから生まれる子どもたちも、白眼視されるような時代がありました。自分の多文化ルーツを否定するような子どももいましたが、現在では自分の持つ文化ルーツをすべて大切にできるよう、親は様々な機会を子どもたちに与えることが奨励されています。

アメリカは人口的に白人が半数を占める国のため、白人が多数を占める地域が多くあります。例えば、そうした地域で育つ白人ルーツとアジア人ルーツを持つ子どもたちの中には、自分のアジア人のルーツを否定的に思うようになる子もいると報告されています。そのため、多文化ルーツを持つ子どもたちの子育てのために、人種的に多様な地域に引っ越すことが望ましいとされています。それが難しい場合、子どもたちの多文化ルーツを扱った絵本を幼少時からたくさん子どもに読み聞かせる、親の両方の家族やコミュニティと頻繁に交流する、多人種で構成されている学校に子どもを通わせる、などが提案されています。親の積極的な働きかけで、子どもたちが自分の多文化ルーツを誇りに思えるようになる、といった効果が報告されています。

日本にも多文化ルーツを持つ子どもたちは増えています。日本は単一民族社会であるため、こうした子どもたちの中には、自分の容姿が他の子どもたちと異なることで、目立って嫌だといった否定的な気持ちを持つことが報告されています。多文化ルーツを持つ子どもたちが、自分のルーツを誇り、健やかに育っていくために、こうした子どもたちを育てる親がアメリカの経験に学ぶことは多いでしょう。子どもたちの多文化ルーツを大切にする習慣を親が意識的に日常に取り入れることで、子どもたちが笑顔で安心して暮らしていけるようになるのではないのでしょうか。

<12月・1月のひろばの様子>



【未就学児来室可能日】

12月21日(水) 9時～11時30分 参加親子 6組(大人6名・子ども9名・計15名)

12月26日(月) 9時～11時30分 参加親子 9組(大人9名・子ども13名・計22名)

乳児さんだけでなく、3歳～5歳のお兄さんお姉さんも遊びに来てくれました！レゴやブリオで集中して遊んだり、おままごとやお人形遊びに夢中な姿が見られました。また、折り紙で可愛い飾りを折ったり、シールをたくさん貼って大きなクリスマスツリーの壁面を華やかにしてくれました♪乳児さんは、幼児さんの動きを目で追ったり、近づいて触れてみたり、幼児さんの遊び方を見てよい刺激になっていました♪



【ふれあいあそび】

1月18日(水) 10時30分～50分 参加親子 9組(大人9名・子ども9名・計18名)

今月の手遊び歌や、以前の手遊びで人気のあった歌、今回初めて遊ぶ歌など、全部で6曲の歌を楽しみました♪前半はお子さんたちをお膝に乗せて座ってできる曲、後半は立つ、歩く、くると回る…など、動きのある曲を中心に、お父さん、お母さんも一緒に歌を歌いながら遊びました。抱っこでくると回ると、お子さんたちは楽しそうに声を上げニコニコ笑顔！親子でふれあう時間を楽しく過ごしました♪



【小児科医 八木先生来室】 1月31日(火) 9時30分～10時

ひろばでは毎月一回程度、本学人間科学部総合子ども学科教授・小児科医の八木先生に來室していただき、子どもの成長発達についての相談や離乳食・睡眠など、色々なご相談をお聞きする時間を設けております。子どもをひろばで遊ばせながら気軽に小児科医の先生に質問や相談ができます。ぜひ皆さまのご利用をお待ちしております♪



【わいわいトーク】 1月27日(金) 10時～11時 参加親子10組(大人10名・子ども11名・計21名)

テーマ：自由な発想で伝承遊びを楽しもう

講師：松井 愛奈先生 (本学人間科学部総合子ども学科 准教授)

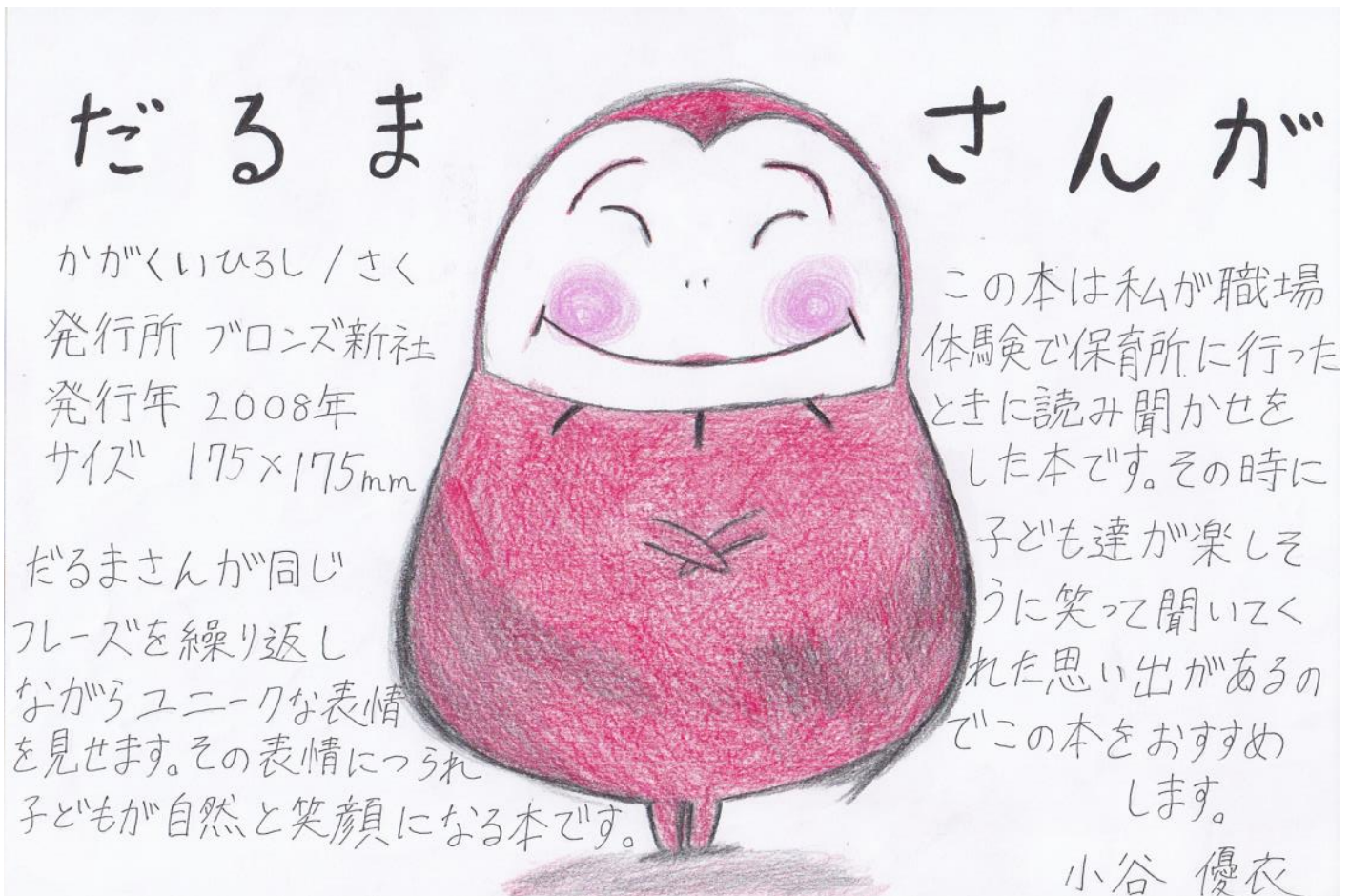
今回はお手玉やこま、福笑いを一組ずつお配りし、親子で遊んでもらいました。「こうやって遊ぶ」という決まりは一切なし！お手玉は、積んだり投げたり、頭の上に乗せてみたり、おままごとのごはんとして使ってみたりする様子が見られました♪こまは床の上だけでなく、お皿の上でも回るかな？と試してみたり、2つの回るこま同士がぶつかる様子を見たり…。お土産で持って帰っていただいた福笑いは今年の干支の「うさぎ」を先生が用意してくださいました。今は沢山の楽しい玩具がある中、こういった昔ながらの温かみのある玩具に触れる機会はそう多くはないと思いますので、お子さんにとっては新しい経験、保護者の方には懐かしさに触れる時間となっていれば嬉しいです(^ ^) ☆



【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。
前年度ひろば利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、
学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、小谷 優衣さん『だるまさんが』作：かがくいひろし/株式会社プロンズ新社 を
ご紹介させていただきます。



だるま さんが

かがくいひろし / さく
発行所 プロンズ新社
発行年 2008年
サイズ 175×175mm

この本は私が職場
体験で保育所に行った
ときに読み聞かせを
した本です。その時に
子ども達が楽しそ
うに笑って聞いてく
れた思い出があるの
でこの本をおすすめ
します。

だるまさんが同じ
フレーズを繰り返し
ながらユニークな表情
を見せます。その表情につられ
子どもが自然と笑顔になる本です。

小谷 優衣



2023年3月の予定

3月3日（金）
入試のため閉室

3月21日（火）
お父さんDAY・休日のひろば
2022年度通常ひろば最終日

※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba) をご覧ください。



【問合先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp



【リレートーク】

先生方のコラムには子育てのヒントがたくさん詰まっています！
今月は、人間科学部 心理学科 教授 山田尚子先生よりご寄稿いただきました。



「失敗しても大丈夫」

人間科学部 心理学科 教授 山田尚子先生



最近ビジネスや医療の領域で「心理的安全性」という言葉をよく聞くようになりました。自由にアイデアを出し合ってプロジェクトの成果を向上させたり、医療現場でミスを減らしたりするためには、メンバーが「自分が失敗してもチーム全体で対応してくれるだろう」、「こんなことを尋ねても、無知だとか仕事ができない人だとは思われないだろう」と思える人間関係が組織内にあることが重要だと考えられるようになってきています。同じことが家庭でも言えるかもしれません。

心理学の分野では「過剰適応」という概念があります。これは、周りから「いい子」に見える子どもが、心の中では自信がなく、それでも良い評価を得るためには失敗してはいけない・うまくやらないといけないと過剰に努力している状態のことを言います。もちろん、実際に努力することで成績が上がったり、ほめられて自信がついたりする効果もあるでしょう。しかし過剰適応には「自分の気持ちを抑えてでも、または自分の力を超えていると感じていても周りの期待に応えるために頑張る」という要素があり、これがしばしば子ども自身をしんどくさせることもわかってきています。

石津と安保（2009）が中学生を対象として行った研究によれば、幼い頃に父母が自分にやさしく微笑みかけて話しかけたり悩みをわかってくれたりしたと感じている子どもほど、過剰適応の自己抑制や自己不全感などの傾向が低いことが示されています。自己抑制とは「自分が思っていることが口に出せない」、「相手と違うことを考えていても相手に伝えない」などのように自分を抑える傾向であり、自己不全感は「自分に自信がない」、「自分にはいいところがない」と感じる傾向です。つまり、幼い頃に親から温かく接してもらった記憶は、子どもが家庭や学校でのびのびと自己主張ができ、失敗を恐れず自信をもって行動できるようになる助けのひとつになると考えられます。よく言われるように「失敗は成功のもと」ですが、成功に近づくためには、失敗したことに落ち込みすぎず、でも適度に反省してまたやってみるといった姿勢が不可欠です。子どもが失敗しても大丈夫と思えるような環境をどうやったら作れるか、私自身も考えていきたいと思えます。

<2月のひろばの様子>



【小児科医 八木先生来室】 2月13日(月) 10時～10時30分

毎月一回程度、本学人間科学部総合子ども学科教授・小児科医の八木先生に来室していただき、子どもの成長発達についての相談や離乳食・睡眠など、色々なご相談をお聞きする時間を設けております。子どもをひろばで遊ばせながら気軽に小児科医の先生に質問や相談ができます。ぜひご利用くださいね♪



【ふれあいあそび】

2月22日(水) 10時30分～50分 参加親子10組(大人10名・子ども10名・計20名)

ひろばで毎月行っている手遊びの中から人気のあったものを振り返りとしてやってみたり、CDの歌に合わせて歩いたり回ったり転がったりと、親子でたくさん楽しみました！子どもも保護者に触れられて嬉しそうに顔を緩ませたり、保育士の真似をして一生懸命に手足を動かして活動する様子は私たち職員も思わず笑顔になる瞬間が多かったです♪お家でもたくさん家族でふれあい、愛情を深めていってくださいね☆



【午前：お父さんDAY・午後：休日ひろば】

2月25日(土)

お父さんDAY：9時30分～11時30分 参加親子9組(大人9名・子ども9名・計18名)

休日ひろば：13時30分～15時30分 参加親子6組(大人10名・子ども6名・計16名)

今回のお父さんDAYでは、いつもの手遊びの時間をひとりのお父さんが担当してくださいました。育児で気を付けていることなどをお父さん達が意見交換したり、音楽にあわせてお子さんを持ちあげたり、歩いたりとお父さんならではの動きがたくさんある内容でした。お子さんもお父さん達もとてもいい表情で私たちも癒されました☆



午後の休日ひろばでは親子3人での参加の方も多く、それぞれが親子の時間を過ごされていました。家族にとって良い休日のひとときとなっていれば嬉しく思います！

【わいわいトーク】

2月28日(火) 10時～11時 参加親子9組(大人9名・子ども9名・計18名)

テーマ：親の幸せで子どもも幸せに♡子どもの自己肯定感を高めるために
本当に必要なこと～ポジティブ心理学を子育てに活かす～

講師：有馬志津子 先生

(本学看護リハビリテーション学部看護学科 准教授)

今回は、親の自己肯定感を上げることが、子どもの幸せにつながるということで、まずは参加者お一人ずつ最近あった良かったことを話し合いました。また、子どもではなく、自分に対しての優しさ・思いやり(セルフコンパッション)を口に出して考えてみました。「自分のために」美味しいものを食べたい、お買い物をして気分を上げたい等、様々な声が聞かれました。皆さん拍手でお互いを認め合い、とても温かい場となりました。親でなくとも一人の人間として生活する上で心に響く内容でした。自己肯定感を上げて自分も周りの人も幸せになっていけたら良いですね♪



【おすすめ絵本】

本学人間科学部総合子ども学科 高原ゼミの皆さんによるおすすめ絵本の紹介です。
前年度ひろば利用者の皆さんから寄せていただいたお声をもとに、
学生さんがわかりやすく紹介してくださっています。ぜひご覧ください♪

今月は、福本真瑤さん『とんとんパンやさん』作・絵：白土あつこ/株式会社ひさかたチャイルド を
ご紹介させていただきます。



来年度のひろばについて

新年度ひろば開室予定は、**2023年4月6日（木）**です。
新規利用の方も、2023年3月までにご利用いただいた方も、
2023年4月からの利用には、年度登録が必要となります。

- ・年度登録料：お子様1人あたり200円（お釣りのないようにご協力をお願いします）
- ・保護者様のご本人確認出来るもの（運転免許証・健康保険証などご住所の確認できるもの）

ご来室の際には、上記2点をお持ちいただきますよう、お願いいたします。

2023年3月現在の予定です。上記は予告なく変更となる場合があります。
最新の情報は大学HPまたは、ひろば公式Twitterをご覧ください。



※ご利用の予約は、
予約システムからお申し込みください。
予定は予告なく変更する場合があります。

最新情報は、ひろばのTwitter
(ID:kw_hiroba) をご覧ください。



【問合先】

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23
甲南女子大学 子ども室(10号館5階)

TEL ☎078-413-3120
MAIL ✉hiroba@konan-wu.ac.jp